

(別紙様式)

平成31年度学校自己評価システムシート (県立ふじみ野高等学校)

目指す学校像	学習とスポーツ・文化活動を両立し、地域に元気・感動・夢を発信する学校
--------	------------------------------------

重点目標	1 基礎学力の向上と授業の充実 2 基本的生活習慣と規範意識の質的向上 3 キャリア教育の充実と進路実績の向上 4 部活動・生徒会活動・ボランティア活動の充実と発展
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年度評価(平成 年 月 日現在)		
年 度 目 標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	○現状 91.6%の生徒が授業に意欲的に取り組んでおり、80.3%の生徒が授業の内容を理解している。調査前の学習時間を1~2時間、2時間以上確保している生徒が65.5%いる。 ○課題 ・引き続き、規律ある授業を全職員で実施し、学力向上に向けた体制を継承していく。 ・各種検定を定着させていく。 ・学校行事を更に精選していく。	目的を持って学習に主体的、意欲的に取り組む生徒の育成	①アクティブラーニング等の手法を取り入れた授業改善、研究協議を実施する。公開授業週間等を活用して授業力を向上する。 ②チャイムトゥチャイムによる授業を教員・生徒とも徹底する。 ③3年間を見通して英検IBA等の各種検定に全校体制で取り組む。 ④行事日程を精選し、可能な限り授業を確保する。	①アクティブラーニング研究授業や教科研究授業を年10回実施 ②チャイムトゥチャイムの実施状況 ③各種検定を年10回実施 ④行事日程の工夫、授業カウント表の作成			
2	○現状 出席状況、身だしなみ、清掃活動、交通マナー等の基本的生活習慣等は概ね良好である。 ○課題 ・生徒の規範意識を更に醸成するため、継続して生活指導を行っていく必要がある。 ・生徒・保護者の精神的なケアを組織的に行うように努めていく。	「時を守り場を清め礼を正す」や規範意識の向上に主体的に取り組む生徒の育成	①生活指導、交通安全マナーアップ、校内環境美化を徹底する。 ②年間を通じて遅刻指導を継続し、特定期間を重点的に指導する。 ③二者面談、三者面談の実施、スクールカウンセラーの活用等の情報共有を積極的に行い、組織的に教育相談を実施する。	①通学指導を年8回実施 ①交通事故件数0件 ①部室清掃を年3回実施 ②出席率95%以上、皆勤者数50%以上 ③学校評価アンケートの分析 ③SCの相談件数、自立支援事業の成果、個人面談の実施状況			
3	○現状 生徒の進路希望に応じた3年間を見通した進路指導により、「学校斡旋就職率100%」、生徒の希望している進路実現ができていく。 ○課題 ・学校行事精選し、可能な範囲で授業確保に努め、学力向上に努めていく必要がある。 ・進路行事(学年別進路説明会、模擬面接会等)を更に充実させる。	希望する進路に向けて意識を高め、意欲的に取り組む生徒の育成	①上級学校への進路実現に向けた補講や補習、対策講座を組織的に行う。 ②3年間を見通して就労体験活動や各種ガイダンス等を実施する。 ③保護者対象の進路説明会、進路パス見学会、PTA参加の模擬面接会等を実施して、PTAとの連携を密にする。	①進学補講、補習、対策講座の参加者状況 ②学校斡旋就職率100% ②進路関係情報の提供回数 ②ガイダンス等の満足度90%以上 ③保護者アンケートの分析			
4	○現状 ・多数の運動部が全国・関東大会に出場するとともに、全体として競技力が向上している。また、文化部は意欲的に活動をしている。 ・生徒会活動も活発化しており、行事に対する生徒の意識は高まっている。 ・生徒会が中心となりボランティア活動を行っている。 ○課題 ・埼玉県教育環境整備基金を有効活用する。 ・継続して各部活動の充実を図る。 ・学校からの情報発信を積極的に行う必要がある。	何事に対してもチャレンジする勇氣とコミュニケーション能力を持った生徒の育成	①埼玉県教育環境整備基金で設置したプロジェクター・スクリーンを活用する。 ②外部指導者を活用するとともに、科学的、効果的に練習を行い、上部大会に出場させる。 ③交流、ボランティア等、地域における事業に生徒・教員を積極的に派遣する。 ④中学校訪問の実施、各種教育団体等の視察等を積極的に受け入れる。 ⑤生徒の活動をホームページに掲載、一斉メール配信システム等を有効活用する。	①授業や部活動での活用状況 ②部活動実績 ③地域交流等の派遣回数と参加生徒数 ④中学校訪問・塾訪問を年2回実施 ④各種教育団体の視察状況 ⑤ホームページの更新回数、メール配信の回数			

学 校 関 係 者 評 価		
実施日	平成	年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等		